

科目名	両眼視機能診断学講義			分野・必選別・単位数	専門科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 白井千恵						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	講義
授業の概要	両眼視機能の成立機序、生後の発達および正常両眼視機能の生理について考察する。						
授業の到達目標	<p>①両眼視野、実際空間と視空間、網膜対応、Vieth-Müller circle、horopter円、Panum融像圏、同時視、融像、深径覚、立体視および抑制について説明することができる。</p> <p>②両眼視機能の評価には、日常視に近い(遠い)状態で行う検査や正常対応が検出されやすい(検出されにくい)検査など様々な方法を組み合わせて調べ、結果を総合的に評価する必要があるため、理論面と実際面からこれらを学習し、視能矯正学の臨床においてはどのような検査法の組み合わせが有用であるかを説明し実践することができる。</p>						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	白井 千恵	教授	両眼視機能の成立に関係する視器の構造と機能について説明できる。			
	2	白井 千恵	教授	両眼視機能の発達について説明できる。			
	3	白井 千恵	教授	両眼視野について説明できる。			
	4	白井 千恵	教授	実際空間と視空間について説明できる。			
	5	白井 千恵	教授	網膜対応について説明できる。			
	6	白井 千恵	教授	Vieth-Müller circleについて説明できる。			
	7	白井 千恵	教授	Horopter円について説明できる。			
	8	白井 千恵	教授	Panum融像圏について説明できる。			
	9	白井 千恵	教授	同時視について説明できる。			
	10	白井 千恵	教授	融像について説明できる。			
	11	白井 千恵	教授	深径覚について説明できる。			
	12	白井 千恵	教授	立体視について説明できる。			
	13	白井 千恵	教授	抑制について説明できる。			
	14	白井 千恵	教授	両眼視機能成立の条件について説明できる。			
	15	白井 千恵	教授	講義の振り返りと習熟度確認			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおく。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用して復習しておく。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子:「視能学」第2版 文光堂 シリーズ監修 公益社団法人日本視能訓練士協会:視能学エキスパート「視能訓練学」医学書院 von Noorden GK, Campos EC:Binocular Vision and Ocular Motility. Theory and Management of Strabismus,6th ed. Mosby						
参考書	弓削経一編:「視能矯正-理論と実際-」増補版第3版 金山出版(絶版のため関連部分をコピーして使用する) 丸尾敏夫編:眼科Mook10「斜視・弱視」 金原出版(絶版のため該当部分をコピーして使用する)						
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップDPI(視能矯正学の基盤となる学識を習得し実践することができる。)を参照し理解すること。						